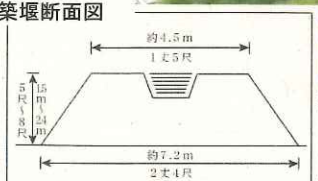
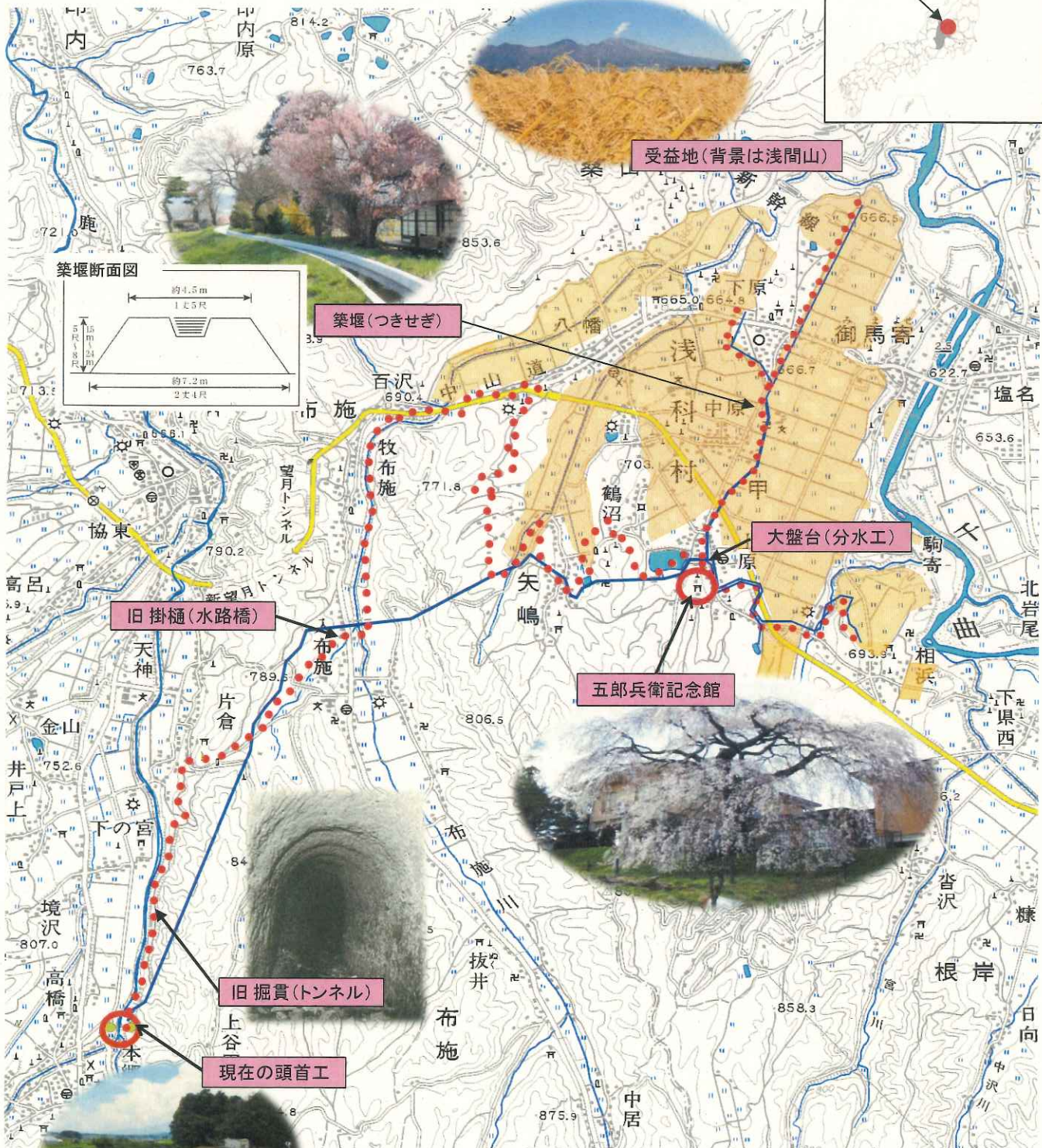


# 位置図

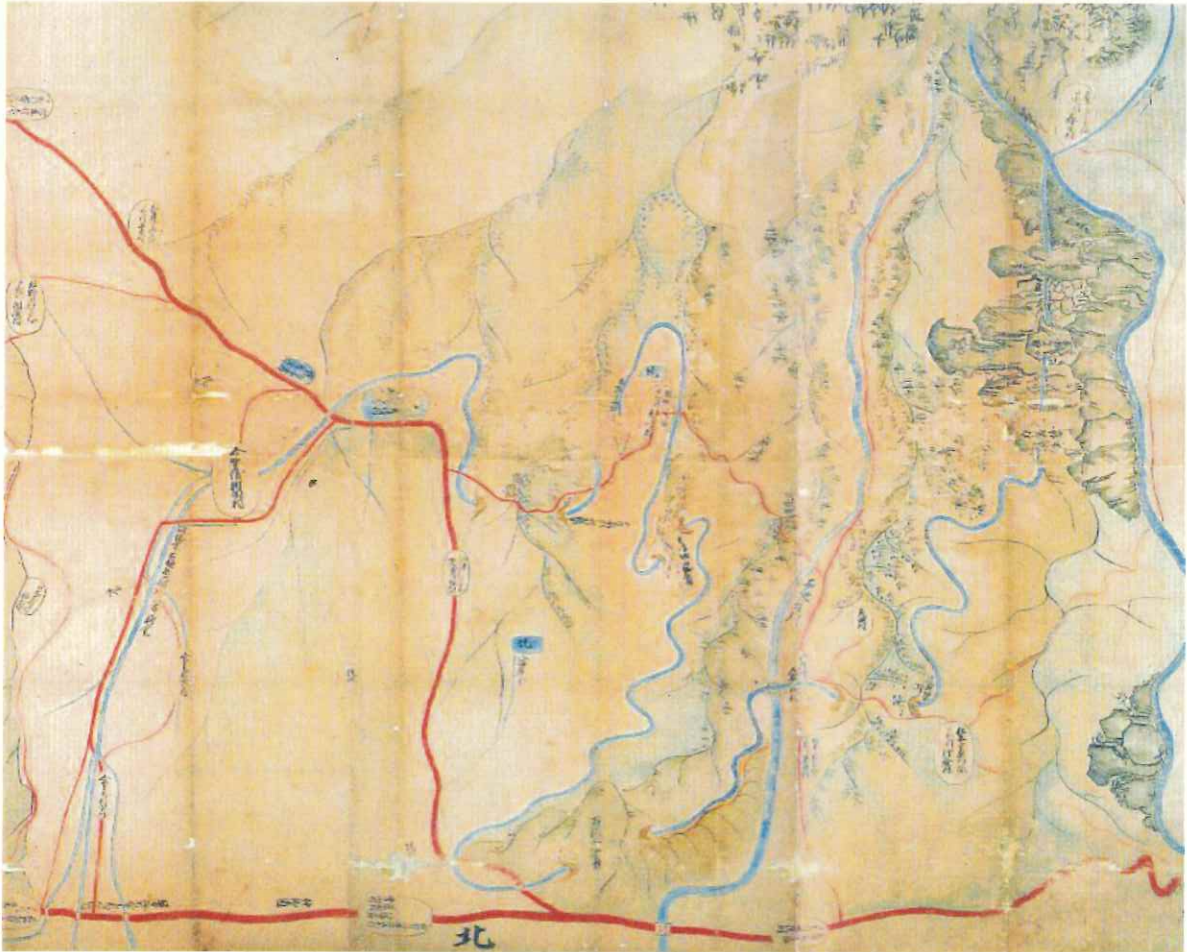


- 凡例
- 受益地 A=416ha (現在)
  - 現在の水路(1971年~現在)
  - 築造当時の水路(1630年~1971年)



b. 過去と現在の写真

- (i) 1712年ころにつくられた絵図。2つの河川の合流点で取り入れられた用水が、掘貫(トンネル)を抜けたり河川の上を掛樋(木製の水路橋)でわたしたりなどして、徐々に高度を下げながら五郎兵衛新田村まで流れてきて、それがさらに各方面へと分流されている様子が描かれている。



- (ii) 現在の五郎兵衛用水



▲頭首工(2つの河川の合流点にある)



▲沈砂池(頭首工の直下流部にある。地元  
の小学生が水路の勉強をしている)



▲旧 掘貫（トンネル）（掘削した当時の苦勞が偲ばれる）



▲築堰（高盛土をして用水を送っている）



▲五郎兵衛米（ブランド米）の実る受益地（五郎兵衛新田。浅間山を望む）



▲地域住民への啓発活動（水源の視察）

c. その他  
古文書



▲1593年、徳川家康から市川家にあてた「朱印状」。

その第1条に、家康の領地内ならどこで鉱山開発・新田開発してもよい、と記されている。